介護ロボット活用ミーティング()

本音で語ろう!

介護現場で働くみんなの情報交換会

開催時間 13:00~16:00



仙台会場 令和2年10月23日(金)仙台国際センター〔コミュニケーション〕

大阪会場 令和2年10月30日(金)エル・おおさか(大阪府立労働センター)〔入浴支援〕

名古屋会場 令和2年11月 6日(金)ウインクあいち(愛知県産業労働センター)(移乗支援)

千葉会場 令和2年11月13日(金)蘇我コミュニティセンター(排泄支援)

福岡会場 令和2年11月20日(金)天神ビル(見守り)



介護施設の施設長 介護事業所の所長 介護主任 (リーダー)

介護機器の導入担当者 介護現場で介護機器を取り扱う職員 等

令和2年度 介護ロボット活用ミーティング

- 目次-

【全会場共通】
【仙台会場】 1. 介護×IT機器の開発 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2. コミュニケーションロボットで何ができるの ・・・・・・・・・ P27 NECプラットフォームズ株式会社 川島 理俊 氏
3. 笑顔が増える介護の輪 ・・・・・・・・・・・・・・・ P33 介護老人法権施設 ゆうゆうホーム 田原 智美 氏
【大阪会場】
2. ナノミストバスについて ・・・・・・・・・・・・・・ P57 株式会社EINS 木島 信一 氏
3. 安心・快適な入浴介助 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P61 特別養護老人ホーム コティコート北大阪 森 皇人 氏【名古屋会場】
1. 高齢・障害現場における介護ロボット技術の活用 ・・・・・・・・ P67 なごや福祉用具プラザ 冨板 充 氏
2. 移乗の先にあるもの ・・・・・・・・・・・・・・ P77 アイ・ソネックス株式会社 西 貴央 氏
3. 長寿の里・十四山の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・ P91 介護老人福祉施設 長寿の里・十四山 矢田 明 氏

【千葉会	場						
1.	介護ロボットの普及に向けた取り糸 千葉市保健福祉局		・・・・・ 介護保険管理	· • • 里課 <u>·</u>	• • • 並木	• 貴司	P99 氏
2.	排泄ケアシステム HelPPao	d ・・・・ パラマウント	・・・・・・ベッド株式会	· · · è社 L		• 悟史	P109 氏
3.	リフトを使用した排泄支援・・・ グッドタイムリt	・・・・・・ ごング千葉み [、]	・・・・・・ なと/駅前追	·· <u>有</u> [· · ·	• 良祐	P123 氏
【福岡会	緣場】						
1.	政令市初ロボットエキスパートの主	 高齢社会政策	· • • 5課 1	· · · 含員	• 知子	P133 氏
2.	生活リズムを把握するクラウドシス		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 ı— }	· · · 長谷川		P137 氏
3.	見守り機器にインカムを併用して 特別養語	・・・・・ 隻老人ホーム	・・・・・ 聖ヨゼフの園		· · · 木戸	· 邦夫	P149 氏

^{令和2年度} 介護ロボット活用ミーテング

介護ロボットの効果的な利用を考える

各会場 13時00分~13時15分(15分)

公益財団法人テクノエイド協会 企画部

The Association for Technical Aids(ATA)

介護ロボツト活用
・ミーティング
本音で語るう!

開催目的

日本の高齢化は、世界に例を見ない速度で進行しており、介護人材の不足が大きな課題となっております。介護人材を確保する一方で、限られたマンパワーを有効に活用する解決策の一つとして、高齢者の自立支援を促進し、質の高い介護を実現するためのロボット・センサー等の活用が期待されます。

高齢者介護のニーズが多様化・複雑化するなか、福祉用具・介護ロボット(以下、「介護機器」)の利用は、今後益々進むことと予測されるところであり、適切な導入と利用を推進するためには、導入前の十分な情報収集をはじめ、導入による効果の確認についても介護施設にとって極めて重要といえます。

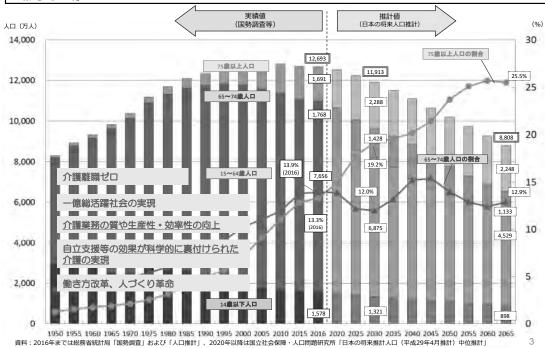
一方、現行では介護機器導入前後の情報について、施設間で情報共有する仕組みが十分に 整っているとはいえず、一部の先駆的な介護施設の事例を聞く機会はあっても、好事例や失 敗例を率直に意見交換できる場がないという意見も寄せられております。

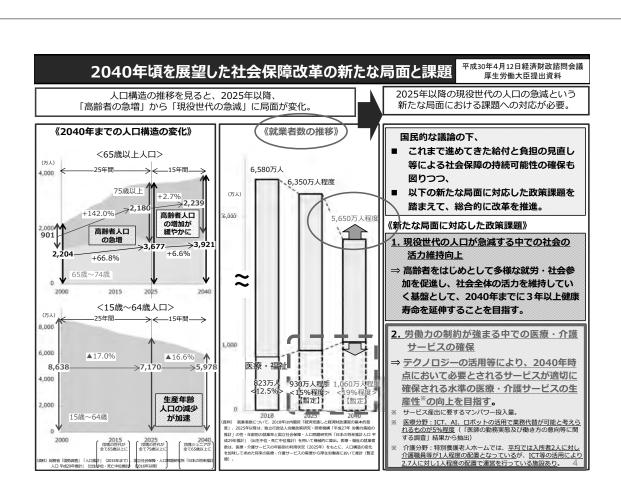
こうした背景を踏まえ、当協会では、<u>介護施設・事業所(介護事業所等)を対象にした「</u> **介護ロボット活用ミーティング**」を開催することとし、介護職員の介護機器の効果的な活用 を促し、楽しく・働きやすい職場環境の構築を推進することといたします。

The Association for Technical Aids(ATA)

少子高齢化の進展、求められる対応策

○ 今後、日本の総人口が減少に転じていくなか、高齢者(特に75歳以上の高齢者)の占める割合は増加していく。





2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現

- 2040年を展望すると、高齢者の人口の伸びは落ち着き、現役世代(担い手)が急減する。
 - →「総就業者数の増加」とともに、「より少ない人手でも回る医療・福祉の現場を実現」することが必要。
- 今後、国民誰もが、より長く、元気に活躍できるよう、以下の取組を進める。 ①多様な就労・社会参加の環境整備、②健康寿命の延伸、③医療・福祉サービスの改革による生産性の向上 ④給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保
- また、社会保障の枠内で考えるだけでなく、**農業、金融、住宅、健康な食事、創薬にもウイングを拡げ、関連する政策** 領域との連携の中で新たな展開を図っていく。

2040年を展望し、誰もがより長く元気に活躍できる社会の実現を目指す。

«現役世代の人口の急減という新たな局面に対応した政策課題»

多様な就労・社会参加

【雇用・年金制度改革等】

- 70歳までの就業機会の確保
- 就職氷河期世代の方々の活躍の場を 更に広げるための支援
- 中途採用の拡大、副業・兼業の促進
- 地域共生・地域の支え合い
- ○人生100年時代に向けた年金制度改革

健康寿命の延伸

【健康寿命延伸プラン】

- ⇒2040年までに、健康寿命を男女どもに 3年以上延伸し、**75歳以上**に
- ①健康無関心層へのアプローチの強化、 ②地域・保険者間の格差の解消により、 以下の3分野を中心に、取組を推進
- 次世代を含めたすべての人の健やかな 生活習慣形成等
- ·疾病予防 · 重症化予防
- ・介護予防・フレイル対策、認知症予防

医療・福祉サービス改革

【医療・福祉サービス改革プラン】 ⇒2040年時点で、単位時間当たりのサービス

提供を5% (医師は7%) 以上改善 以下の4つのアブローチにより、取組を推進

- ロボット・AI・ICT等の実用化推進。
 - 一タヘルス改革
- タスクシブティングを担う人材の育成。 シニア人材の活用推進
- ・組織マネシメント改革
- 経営の大規模化・協働化

《引き続き取り組む政策課題》

給付と負担の見直し等による社会保障の持続可能性の確保

〇「成長戦略フォローアップ」(本文抜粋) (令和元年6月21日閣議決定)

- Ⅱ. 全世代型社会保障への改革
- 5. 次世代ヘルスケア
- (2)新たに講ずべき具体的施策
- i)技術革新等を活用した効果的・効率的な医療・福祉サービスの確保
- ② ICT、ロボット、AI 等の医療・介護現場での技術活用の促進
- ウ)ロボット・センサー等の開発・導入
- · 2040年を展望した中長期ビジョンである「未来イノベーション WG 」の取りまとめを踏まえた医療福祉分野における取 組を検討し、2019 年度中に具体化する。ムーンショット型研究開発、先端技術の速やかな社会実装に向けた新たな 評価モデルの開発、技術インテリジェンス機能の強化等、政府一丸でロボット・AI等の溶け込んだ社会システムの実 現を目指す。また、国民が自分の健康状態を自ら把握できる社会の実現に向け、機器やサービスに関して、評価手法 の開発を推進する。
- ロボット・センサー等の効果検証に関するルールを次期介護報酬改定までに整理する。事業者による継続的な効果 検証とイノベーションの循環を促す環境を整備し、得られたエビデンスを次期及びそれ以降の介護報酬改定等での評 価につなげる。
- ロボット・センサーについて、重点分野に基づき、利用者を含め介護現場と開発者等をつなげる取組や、介護現場で のモニター調査等により、現場ニーズを捉えた開発支援を行うとともに、介護ロボットを活用した介護技術の開発や介 <u>護ロボットの普及啓発を行い、介護現場への導入・活用支援を着実に進める</u>。あわせて、障害福祉分野についても同 様の取組を進める。
- ③ 医療・介護現場の組織改革や経営の大規模化・協働化
- ア)書類削減、業務効率化、シニア層の活用
 - ・ 人手不足の中で、介護現場のサービスの質の維持・向上を実現するための方向性を整理した「介護現場革新プラ ン」を踏まえ、2019 年度、介護施設における①業務フローの分析・仕分け、②高齢者の介護助手等としての活躍推進、 ICT 等の活用等による、パイロット事業を実施し、介護現場の業務効率化モデルを構築する。ま た、2019 年 度以降、集めたノウハウを生産性向上に係るガイドラインに反映し、好事例の横展開を強力に進める。

高齢者及び障害者をとりまく現状

高齢者の現状

- 要介護高齢者の増加
- 認知症高齢者の増加
- 高齢者世帯や高齢者独居の増加
- ADL (日常生活動作) やQOL (生活の質) の維持・向上 など

障害者の現状

- ニーズの多様化・複雑化
- 障害者の高齢化
- 活動や参加に対する理解・支援の拡充
- 機器の利用環境・インフラの整備 など

The Association for Technical Aids(ATA)

7

介護人材の現状

- 人材の不足(海外からの受け入れ)
- 職員の腰痛
- 楽しく・働きやすい職場環境の構築
- 福祉用具等の効果的な活用を促す教育の拡充など

政府・関係機関等の取り組み

- 新規参入(技術やノウハウの活用、転用)の促進
- ロボット技術の活用
- ICT技術の活用、データの集約
- 政府主導によりイニシアティブ協議会の創設
 - → 新たなイノベションの創出、IoT、AI
 - → ロボット利活用の推進・規制改革、
 - → 取扱うことのできる人材の養成 など

The Association for Technical Aids(ATA)

8

ロボットとは

- 【定義】「センサー、駆動系、知能・制御系の3つの要素技術を有する、 知能化した機械システム」
 - → 自動車、家電、航空機、工作機械、産業機械、建機・・・
- ロボットは、工場における生産財として使用される「産業用ロボット」と、
- 医療・福祉やメンテナンス、生活支援、アミューズメント等、多様な用途へ の活用が期待される「サービスロボット」に大別される。

次世代ロボット

産業用ロボット 次世代産業用ロボット 溶接ロボット 電子部品実装用ロボット

サービスロボット







業務清掃ロボット 食事支援ロボット 上肢支援ロボット

装着型ロボット







(出典:経済産業省)

介護ロボットとは

- 1. ロボットの定義
- ●情報を感知(センサー系)
- ●判断し(知能・制御系)
- ●動作する(駆動系) この3つの要素技術を有する、知能化した機械システム。
- 2. ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器を介護 ロボットと呼んでいる。

介護ロボットの例

移乗支援



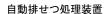




装着型パワーアシスト

排泄支援





移動支援

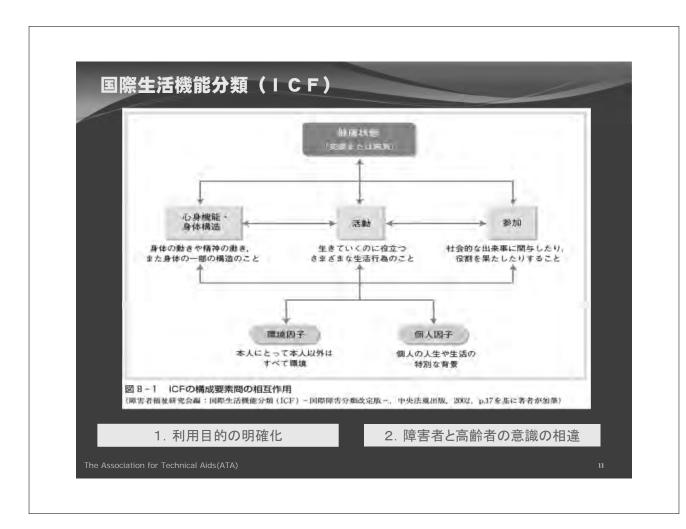


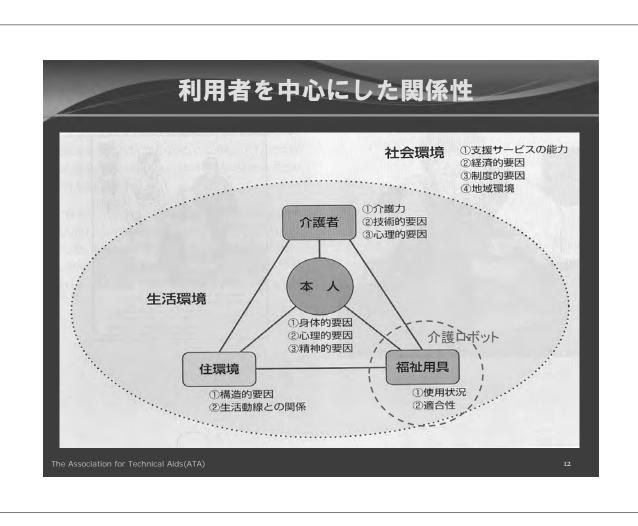
歩行アシストカート

どういった目的からロボット技術を活用するか

- ①移乗支援 ②移動支援 ③排泄支援 ④見守り支援 ⑤入浴支援 ⑥機能訓練支援
- ⑦服薬支援 ⑧認知症セラピー支援 ⑨食事支援 ⑩口腔ケア支援
- ⑪介護業務支援(掃除・洗濯・調理・記録等) ⑫その他

10





介護ロボット等利用にあたっての基本的考え方 活用したい機器・システム(技術) 開発者の 機器・技術 視点 本人の 能力 お困りごと(課題の解決) 機器の 望んでいる暮らし (ニーズ) 役割 本人の 人・意識・意向 福祉用具・介護ロボットは、利用が目的ではなく、目的を達成する一手段 一方、意識化・目的化 ・人生の継続 考慮しながら、利活用を検討 ・自己決定の尊重 ・残存能力の維持・拡大 等



介護ロボットの効果的な導入の可否判断

立場による異なる視点・観点

- ①行政:福祉サービスの持続性、利用の目的化(補助や加算、基準化等)
- ②メーカー等:事業の拡大・成長、収益化
- ③施設等:質の高いサービス、 経営資源の有効活用

—

導入の可否判断



- ◎利用者に与えるインパクト:メリット、デメリット、自主性、ADL、QOL ・・・
- ◎組織(スタッフを含む)に与えるインパクト: やりがい、意識、肉体的・精神的な 負担軽減、雇用・労働環境の改善・・・・
- ◎機器の使いやすさ:使いやすさ、信頼性、確実性、サポート・メンテ・・・・
- ◎コスト&ベンフィト:本体価格、設置費、運用費、教育費・・・・

The Association for Technical Aids(ATA

15

効果的に利用するための検討フロー

~ 課題の明確化等から導入の考える ~

- 1. 課題やアイデアの抽出、利用可能な機器の検討
- → 機能や性能など
- 2. 類似機器との相違、想定する利用者、経済性、仮説を立案
- → 現在のサービスに適用可能か否か
- 3. 可能であれば試用、少人数による仮説検証 → どのような効果で期待されるか、現場の関係者全員で検討
- 4. 多数による検証(効果の実証)
- → 実践の中に位置付け、振り返りを行う
- 5. 予算、導入決定者と交渉

ご静聴、ありがとうございました

公益財団法人テクノエイド協会 企画部 〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ4階

電話 03-3266-6883 電子メールアドレス robocare@techno-aids.or.jp

介護ロボット活用ミーティング

セッンヨン2 (14:10-15:10) 思いをぶつけよう

グループワーク(1グループ6名 全5グループ)

- 自己紹介(1人2分程度) 14:15-14:30
- ▶ 組織、役職、法人が掲げる理念、地域の特性
- 現状と課題 14:30-14:47
- ▶ 個人ワーク(4分) ・・・・・ 現状の整理
- ▶ グループワーク(13分) ····・ 対話(認識の共有)
- アイデアや改善策 14:47-15:04
- ▶ 個人ワーク(4分)・・・・・ 現状の整理
- ▶ グループワーク(13分) ····・対話(認識の共有)
- 報告事項の整理、グループ報告者の決定 15:04-15:10

セシンヨン3 (15:10-16:00) みんなの考えを聞こう

グループワーク報告、意見・情報交換

- グループワーク報告・討議 15:10-15:55
- ▶ グループ報告(6分)
- ▶ 質疑応答、意見・情報交換(3分)

参加者や講師、アドバイザー

(9分×5グループ=45分)

- まとめ、閉会挨拶 15:55-16:00
- ▶ テクノエイド協会(5分)

The Association for Technical Aids(ATA)

介護ロボット活用ミーテング セッション2及び3 メモ

1.参加概要

テーマ:	会場:	:日剰甾				:- ※ ハメー:
コミュニケーション	· 仙台会場					
入浴支援	・大阪会場	令和2年	田	∪ □	$\overline{}$	
移乗支援	·名古屋会場					
排泄支援	·千葉会場					
見守り	・福岡会場					

2.セッション2 (14:10~15:10)

	(D) 利用者 (B) 者)	1. 旭九 ②介護者	①介護体制	2.
現状と課題	要介護			
アイデアや改善策				
備考				
	アイデアや改善策	(1) 利用者 (要介護 者) (2) 本)	現状と課題 アイデアや改善策 (要介護	適用 現状と課題 アイデアや改善策 着) 者) 適用 ②介護者 ①介護体制 ①介護体制

		現状と課題	アイデアや改善策	備考
	③効果の見極め			
	④機能、使い勝手			
	①本体価格			
9 7 7	②搬入・設置費			
- (1	③運用費			
	④教育費			
4. から音	Θ			

如中四年 日本	意見・情報交換	
3.セッション3(15:10~16:00)	グルーブ報告	
3.セッション:	項目	

【仙台会場】

令和2年10月23日(金) 仙台国際センター



仙台フィンランド健康福祉センター(FWBC) プロジェクトとは?



- 仙台市とフィンランドとの産学官連携プロジェクト since 2005 目的:
 - 1. フィンランドの高齢者ケアコンセプトに基づいた健康福祉産業クラスターの形成を通 じて、QOLの高い高齢化社会を目指す。
 - 2. 国内外の多様なステークホルダーの出会いの場や様々な機会を提供することで、 グローバルに対応できるビジネス・R&D環境構築に貢献する。

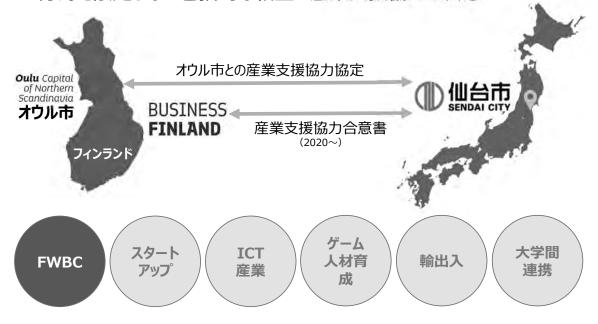


運営: (公財) 仙台市産業振興事業団

FWBCプロジェクトの発展



- 健康福祉分野から始まったフィンランドとの連携が様々な分野に展開
- 分野を限定しない包括的な相互の産業支援協力に合意



© Sendai Finland Wellbeing Center

FWBCネットワーク



■ 15年に渡る活動によりネットワークが拡大、FWBCエコシステムが確立



FWBCプロジェクト:現在の重点分野





■ 介護現場の労働負担の軽減や生産性の向上、高齢者の自立につながる先進技術を活用した製品・サービスの開発を支援。



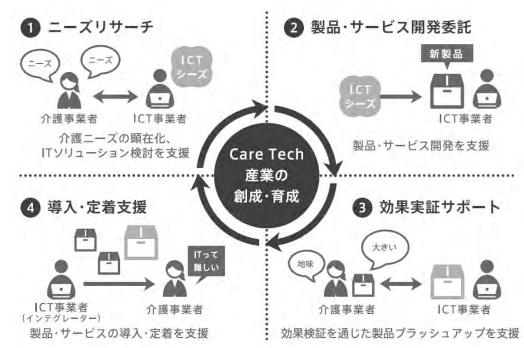
■ フィンランドとの連携に加え、近年急速 に高齢化が進むタイを中心とした ASEANへ健康福祉関連のビジネス展 開を支援。

© Sendai Finland Wellbeing Center

CareTech(介護×テクノロジー)



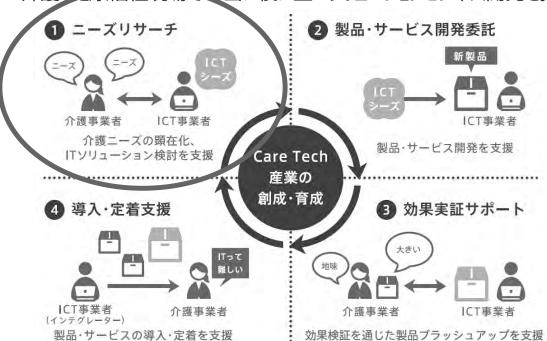
■ 介護・健康福祉現場で本当に役に立つソリューションビジネス開発を推進



CareTech(介護×テクノロジー)



■ 介護・健康福祉現場で本当に役に立つソリューションビジネス開発を推進



© Sendai Finland Wellbeing Center

ニーズリサーチ (R1年度実績)



「地域を支える介護サービスの現状と課題」

※協力先:医療社団法人 東北福祉会 せんだんの丘

■セミナー講話

2019年7月11日 (木) 15:00~17:00 (会場: FWBC) 講師:居宅事業、訪問看護ステーション、通所リハビリテーション、 介護予防通所介護各担当者

■見学&ディスカッション | 2019年8月27日、9月27日



「地域を支えるリハビリ現場の現状と課題」

※協力先:医療法人社団 脳健会 仙台リハビリテーション病院

■セミナー講話

2019年12月12日(木) 15:30~17:00(会場: FWBC)

講師:仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部

部長 榊 望 氏

■見学&ディスカッション | 2020年1月23日(木) 10:00~12:00



ニーズリサーチ



■ ICT事業者向けに介護施設の職場体験の場を提供し、介護現場の ニーズ、課題の掘り起こしを行う。





せんだんの里にて (現場業務見学)

せんだんの杜にて(アイデアハッカソン)

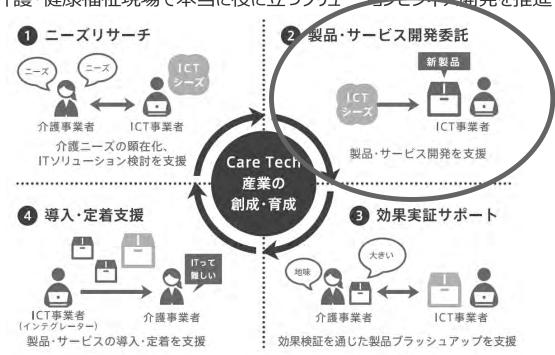
参加企業数·人数	セミナー	現場ヒアリング
H30年度	のべ24社(45名)	のべ15社
R1年度	のべ33社(45名)	のべ27社(42名)

© Sendai Finland Wellbeing Center

CareTech(介護×テクノロジー)



■ 介護・健康福祉現場で本当に役に立つソリューションビジネス開発を推進



健康福祉機器・サービス開発支援事例



【R1年度実績】

「介護記録およびその共有の効率化」をテーマとし、概ねR3年3月末までに市場化を目指すものとして、R1年6月に下記5件を採択。

委託費 上限200万円/件

1.エクスツー合同会社 介護現場の情報共有システム スマイルサーブ

2.株式会社グッドツリー 『介護業務支援ソフトケア樹』介護記録用API

3.株式会社JDSound 市販介護ソフトへ音声入力できる携帯端末機器

4.合同会社地域ケア開発機構 介護・医療の情報共有に特化したアプリ

5.株式会社トレック 介護記録ソフトへの入力支援サービス

© Sendai Finland Wellbeing Center

健康福祉機器・サービス開発支援事例



■ 事業者向けに1件当たり最大200万円の開発費を支援

FWBCの支援で開発された健康福祉機器・サービス(例)













健康福祉機器・サービス開発支援事例



FWBCの支援で開発された健康福祉機器・サービス(例)











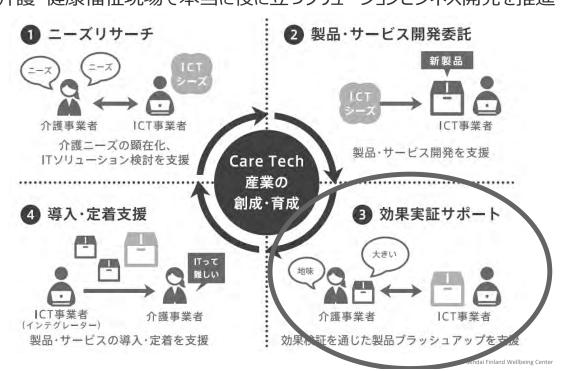


© Sendai Finland Wellbeing Center

CareTech(介護×テクノロジー)



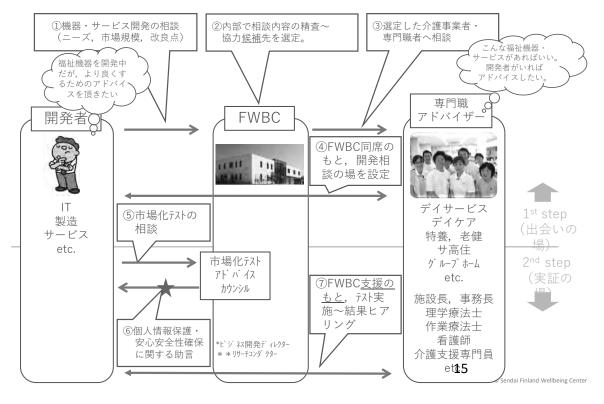
■ 介護・健康福祉現場で本当に役に立つソリューションビジネス開発を推進



福祉機器開発を支える福祉専門職アドバイザー制度



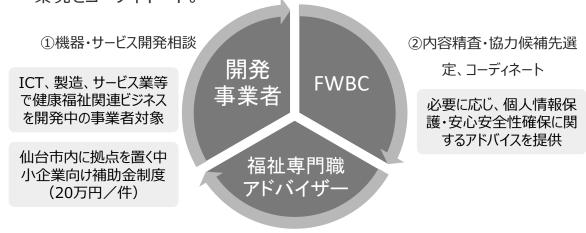
より良い福祉機器開発で不可欠な、現場のニーズを捉える機会をご提供します



効果実証サポート



■ 仙台市内の介護専門職者(福祉専門職アドバイザー:約80名登録)と連携し、製品・サービス開発へ向けたアドバイスやフィールドテスト環境をコーディネート。



③FWBC支援のもと、ヒアリング・実証テスト実施

アドバイザー所属先:デイサービス/デイケア/特養/老健/サ高住/グループホーム 他アドバイザー職種:施設長/事務長/理学・作業療法士/看護師/介護支援専門員 他

インキュベーション施設



■ 健康福祉分野での事業開発を行う国内外の企業・団体及び研究者等 の個人を対象に、様々なサイズのオフィススペースを貸し出しています。

常駐のスタッフ

勤務時間中、FWBCのスタッフがサポートします。

共有スペース

「ブレインストーミング・ラウンジ」と名づけられた共有スペース は、フィンランド製の家具を使用しており、入居者はカジュアルなミーティング等に使用できます。

イベント

FWBCでは、健康福祉・ウェルビーイング関連のイベントやセミナーを定期的に開催しています。

オール・インクルーシブ

オフィススペースは家具備え付けで、家賃にはインターネット・電気料金が含まれており、パソコンがあれば仕事ができる環境を整えています。ゲスト用のWifiコードも提供可能です。

会議室

入居者は希望に応じて会議室(最大50席)を無料で使用できます(予約制)。

オフィススペース(一例)



共有スペース



会議室



© Sendai Finland Wellheing Center

これまでの事業成果



仙台とフィンランドのビジネ ス支援

● 国際事業連携:75件

研究開発支援 (R&D)

● 共同研究: 3件

• 実証事業: 3件

ビジター

12896名
 国内11,680名
 海外1,216名
 (年間平均約400名程度)

仙台企業のビジネス支援

ビジネス開発委託事業 採択件数:74件 事業化件数:27件

入居企業·団体

• 仙台関連:15社

● フィンランド関連:14社

その他

- JNFA設立
- エアギター選手権
- ムーミン遊具寄贈 他

2005年~2020年3月時点までの主な事例の延べ数





介護ロボット活用ミーティング(資料)

コミュニケーションロボットで何ができるの?

~機器導入の好事例と失敗例~

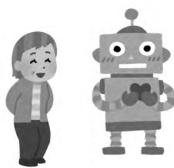
2020年10月23日

NECプラットフォームズ株式会社 ビジネス開発本部



「コミュニケーション ロボット」への期待

- 【あたかも人(例えば皆さん)の代わりになって、お話し相手をしてくれる ロボット
 - ●話しかけたら言葉を認識してくれる
 - ●適切な返事を返してくれる
 - ●話題を提供してくれる
 - ●声をかけてくれる



AIなどの最新技術を使っても、 人のように対応してくれるロボットはまだありません

でも、使い方や利用シーンを考えて使えば、 お年寄りの相手になってくれるケースもあります

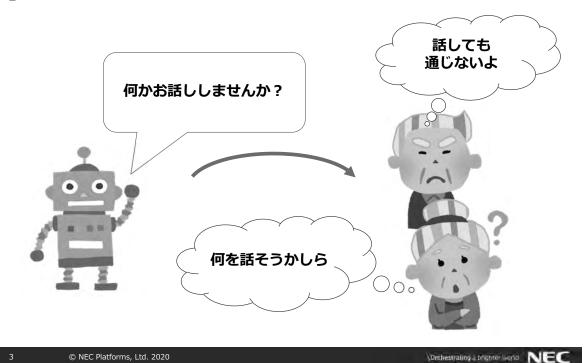
© NEC Platforms, Ltd. 2020

Varishestrating a prighter world NEC



うまくいかないケース

【コミュニケーションロボットを置いて、使われるのを待ってる



おしゃべり機能オプション付きパペロ (略称 おしゃべり パペロ)

N E Cプラットフォームズでは、<u>介護スタッフの皆さんの相棒</u>として活躍できる コミュニケーションロボット 「おしゃべり パペロ」を開発しました

●スタッフの皆さんのお役に立てる「おしゃべり」をします

- ・少しの時間(5~10分程度)皆さんの代わりにパペロがお話相手をします
 - パペロがお年寄りに話しかけてくれます
 - 落語や俳句、季節のお話しを披露してくれます
- ・パペロがスタッフの皆さんも巻き込んだ話題を提供してくれます

●利用者の皆さんの日常行動の促しをしてくれます

・ご飯やお風呂、水分摂取、お部屋に戻るなどの日常行動をパペロが促します

●スタッフの皆さんのレクやお口の体操のお手伝いをします

- ・歌を歌って楽しませてくれます
- ・早口言葉やパタカラ体操をお手伝いします

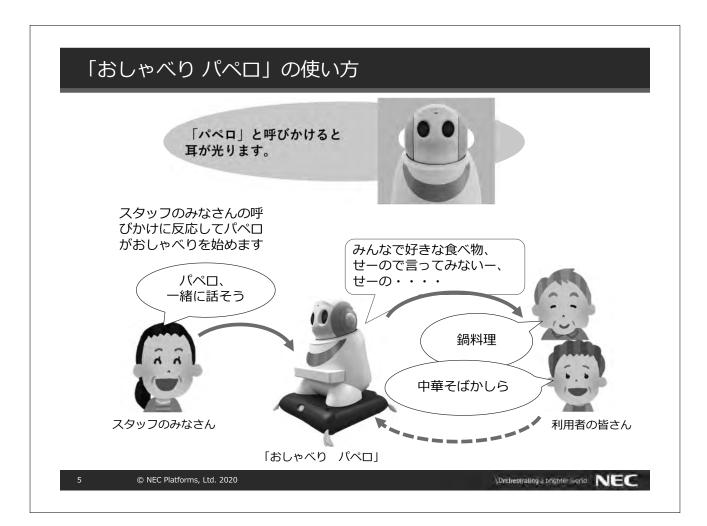
●利用者の皆さんに寄り添ってお話ししてくれます

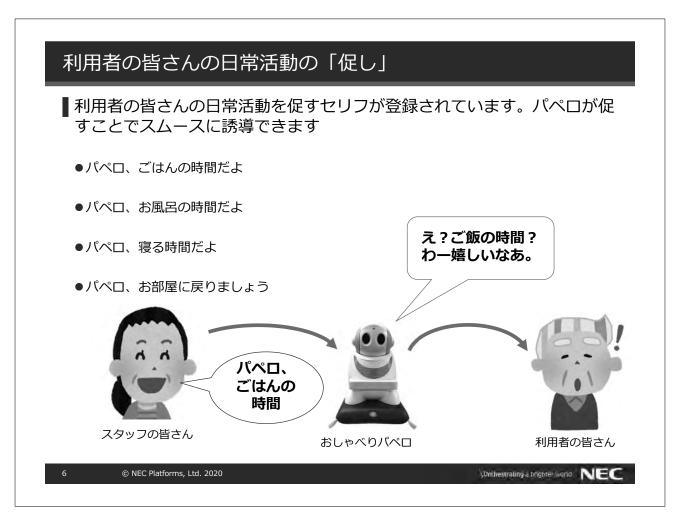
・スタッフの皆さんが用意した利用者様毎のお話しをしてくれます

4 © NEC Platforms, Ltd. 2020



Onchestrating a prighter world NEC





「おしゃべり パペロ」を使ったレクやお口の体操

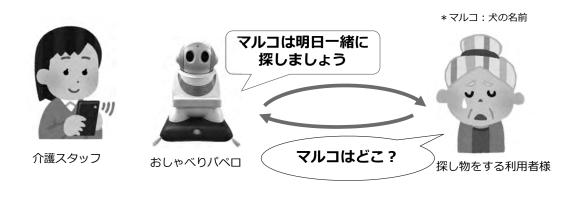
- ▋「おしゃべり パペロ」に落語や俳句をしゃべらせることができます。 おしゃべりが続いている間、スタッフの皆さんの手を空けたり、時間を稼 ぐことができます
- ▋「おしゃべり パペロ」に早口言葉やお口の体操(パタカラ体操など)の お手伝いをさせることができます
- ▋「おしゃべり パペロ」に歌を歌わせることができます。歌は1曲ごと、又 は連続して歌うことができます。利用者の皆さんの合唱を促すことができ ます



© NEC Platforms, Ltd. 2020

スマホを使ったメッセージの登録

- 【スーマトフォンでセリフを入力すると、「おしゃべり パペロ」が反応し てセリフをしゃべります。
- 【夕方になると探し物したり、出かけようとする利用者様に優しく話しかけ て相手をします
- その日のレクレーションやイベントなどの案内を利用者様に伝えます



© NEC Platforms, Ltd. 2020

Onshestrating a prighter world NEC



コミュニケーションロボットをうまく使うには

【ロボットの特性を理解して、ツールとして活用しましょう

- ●同じことを繰り返ししゃべっても疲れません
- ●毎日同じ内容でも、イライラしません
- ●予想外の反応をすることがありません
- ●毎回同じトーンで同じレベルで話せます

【セリフや話題を選ぶことで活用できる場面がシーンが増やせます

- ●季節や時期に合ったセリフ
 - 紅葉がきれい
- そろそろ寒い
- ●一人ひとりの背景にあった話題
 - 出身地
 - 職業
 - 家族
 - 趣味



© NEC Platforms, Ltd. 2020

Onchestrating a prighter world NEC

スタッフの皆さんの相棒として コミュニケーションロボットをご活用ください





© NEC Platforms, Ltd. 2020

Onchestrating a prighter world NEC



Orchestrating a brighter world

「コミュニケーションロボットを導入して」

医療法人金上仁友会 介護老人保健施設 ゆうゆうホーム 通所リハビリテーションセンター 介護主任 田原 智美

1

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

医療法人金上仁友会 理念 『地域に信頼される誠実な医療・介護』





2

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム



介護老人保健施設ゆうゆうホーム 《超強化型老健》

- 一般棟 (59床)

- 認知症専門棟 (40床)

通所リハビリテーションセンター (定員70名)

3

🔣 Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム



課題

- ①慢性的な人手不足
- ②認知症患者の増加
- ③高齢などによる利用者の重度化



求められること

- ①ケアの質の維持・向上
- ②事故防止・リスク管理



ロボット等介護機器の導入

4

Kanagami group

介護ロボットとは……

- ●介護支援型
- ●自立支援型
- ●コミュニケーション型
- ●セキュリティ型

5



医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型癒してくれたり、歌や体操、会話を楽しむロボット









PaPeRo i

Kanagami group

PARO





Ranagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 PARO

使用することで見えたメリット

- 使用中は急な立ち上がりが見られなくなったり、発語が多くなった方もいた。
- 自宅でペットを飼っているようにお世話をする方がおり笑顔が多く見られ、 ペットの話題を介して他利用者とのコミュニケーションをとっている姿もあった
- ・メンテナンス時のブラッシングを毛玉が出来ないように気を付けながら行う 事で手先の運動にもなっていた。

8

Kanagami group

PARO

使用することで見えたデメリット

- ・強い愛着を感じる方がいる一方で、PAROの動きや鳴き声が単調な為" 気持ちが悪い"と感じる方もいた。
- ・実際の動物と比べればやはり単調な部分がある為長時間PAROと関わり続けると"飽き"を示される方がいた。
- ・ご利用者のみの使用では、故障や汚染につながってしまうケースなど もあった

9

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型

PARO

まとめ

- ・PAROの使用について、職員の機能への理解、効果への理解を高め、 症状改善などの目的を持った使用をし、検証を続けていきたい。
- 環境や対象者(認知症等)によって、使用の目的や期待する効果が違うので、より利用者様にあった活用方法を、職員が柔軟に考えていきたい。

10

Kanagami group

コミュニケーション型 Aibo



🌠 Kanagami group

11

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 Aibo



12

🌠 Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 Aibo

使用することで見えたメリット

- Aiboのしぐさや表情での気分転換や癒し効果。
- ・表出が困難なご利用者様における緊張緩和としてのコミュニケーションツール。
- •アレルギーや抜け毛、におい等、衛生面が気にならない。

13

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 Aibo

使用することで見えたデメリット

- ・充電が長時間持たない
- ・段差を認識できない

14

Kanagami group

Aibo

まとめ

- •これからも利用者様にたくさん触れ合っていただき、より活性化に繋げて いきたい
- ・新規の利用者様にも緊張を解く一つとしても活用していきたい
- ・癒し等効果の期待が高いロボット

15

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型

SOTA





16

Kanagami group

コミュニケーション型 SOTA

使用することで見えたメリット

- ・普段のレクリエーションへの参加を拒否しがちな利用者が、物珍しさも あったのか興味を持った様子で参加されるケースもあった。
- •SOTAを介しての新しいコミニケーションの輪が広がる様子も見られた。
- ・レクリエーションツールとして使用した際は、いつもは見られない形での 活気が見られ、利用者の方々の状態の活性化につなげることが出来た。

17

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 SOTA

使用することで見えたデメリット

- ・SOTAは有線が必要であり、置き場所が限られる。またWi-Fi等を利用しての接続なども電波の状況により接続がされない事等多く見られた。
- ・利用者の言葉(方言や滑舌)の音声認識が上手く出来ない(対応しきれていない)時があり、会話が上手く行えない事もあった。その為に会話が噛み合わないことにより利用者が飽きてしまう傾向が見られた。
- ・光BOXがSOTAに繋がらないことが多々あり、定期的な情報のアップロードが __上手く行えていない。

18

Kanagami group

SOTA

まとめ

•SOTA自体は優れたコミュニケーションツールではあるが、それを使う人間 側が活用の為に必要な知識(操作スキル)がいまだに足りない現状がある。 会話モードを用いた活用だけではなく、他にも様々な機能がSOTAにはある のだが未だに活用できておらず、職員自体も少し腰が引けている。 ただ、利用されている方々の中にはSOTAとの会話を楽しまれている様子 が見られている方もいる為、集団レクリエーションでの使用などに職員の考え が限定されないように、個別での活用も含めた柔軟な活用を今後も引き続き 検討して行きたい。

19

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型

PaPeRo-i



🔣 Kanagami group

コミュニケーション型 PaPeRo-i

使用することで見えたメリット

- 言語リハビリの現場で行われている「ことばの発声・復唱トレーニング」を、 PaPeRoiを使って手軽に支援することができる。
- 出題する問題をこちらで選択できるのでご本人の苦手な発音練習が可能。
- パペロの音声での指示+文字での情報の提供が可能のため、分かりやすく 導入しやすい。

21

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

コミュニケーション型 PaPeRo-i

使用することで見えたデメリット

- 対象者のレベルより、PaPeRoiのレベルが低かったため、簡単すぎる リハビリになってしまった。
- 高度難聴の場合、最大音量でも聞こえず、マイクから音を拾い、スピーカー から出力し、さらに個別に耳元で話をしないとダメな場合もあった。
- 認知機能のレベルが限定されることがある。
- 使用する機器が多く、準備に時間を要す。対応するスタッフの人手も必要 となる。

22

Kanagami group

PaPeRo-i

まとめ

・言語聴覚士による、個別リハビリ、集団リハビリで使用したが、口腔機能が向上したという結果は得られなかった。対象者をしっかりと絞り、リハビリ実施頻度を上げていけば、効果は期待できるのではないかと感じている。しかし、難聴者への対応として、準備や人手の課題もあり、対象者を絞る観点から、要支援者を対象に実施すると数値化もでき、効果も表しやすいと思われ、今後も検証していきたい。

23

Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

•導入時の課題

- ①使用目的を明確にしたロボットの 選定と導入。
- ②機種の特徴を把握し、業者任せにしない。
- ③購入なのか、リースなのかによる 費用負担(メンテナンス料など)

24

🌠 Kanagami group

•運用上の課題

- ①使用方法を職員がもっと勉強すべきであった。
- ②ロボット担当者の専任

25

& Kanagami group

医療法人 金上仁友会 介護老人保健施設ゆうゆうホーム

•今後…

- ①限られた介護資源の中で効率化
- ②利用者の安全・安心
- ③自立支援•重度化防止

26

🌠 Kanagami group



ご清聴ありがとうございました。

27

🌠 Kanagami group